



平成25年度 施設長研修会報告

千葉あいご
二〇一四年一月号

今年度の施設長研修会は、平成25年10月22日、23日に南房総鴨川温泉鴨川館において開催されました。139名の参加のもと、障害福祉の動向に係る最新の情報と熱い講演で充実した研修になりました。

一日目は、2つのテーマによる講演と行政説明が行われました。

はじめに、いま私たちが最も関心を寄せている問題「障害福祉の動向・障害支援区分・グループホーム、ケアホームの一元化」について、千葉県知的障害者福祉協会会長の里見吉英氏より、説明をしていただきました。

グループホーム、ケアホームの一元化については、「一元化後のグループホームにおける介護サービスの提供形態が、事業者の規模や実情を考慮して、介護サービス包摂型と外部サービス利用型かを選択できる仕組みとなること。新たにサテライト型住居が創設され、その活用が期待される」ということでした。

また、障害支援区分については、「現行の二次判定により近い一次判定が可能となるように、コンピュータ判定式を見直している」とのことです、その経緯についても、詳細な説明がありました。

また、新たな認定調査項目や内容、評価の視点、現在の進捗状況と今後のスケジュール、現在調整中の課題等、最新の情報をわかりやすくしました。

第55号	(二〇一四年一月号)
発行日	平成26年(二〇一四)年一月十日
発行者	里見吉英
編集者	藤森元・飯田厚子・水田秀人
発行所	千葉県知的障害者福祉協会 (本部) 千葉市中央区中央四一四一十 友美ビル三一三B TEL 0433(234)5772 HP http://www.chibaachiteki.com/ (事務局) 船橋市金堀町四九九一 大久保学園内 TEL 047(457)2461



「職場におけるメンタルヘルス対策」をテーマに、厚生労働省独立行政法人労働者健康福祉機構メンタルヘルス対策支援センター促進員の木村政美氏より講演をいただきました。

講演の冒頭に、「日本の人口1億3千万人のうち、50人に一人がメンタルヘルス不調である」という実態。国民の5大疾病の中に、メンタルヘルス不調が含まれていること。そうした中で、福祉施設は、他業種に比べて職員のメンタルヘルス不調による休職者を出している割合が高く、その背景には、職場が様々な労務管理の問題を

学ぶことができました。特に、配点表や判定口ジックを参考しながらの具体的な説明を受け、間近に迫る施行日に備えて、更に理解を深める必要があると認識しました。

二つ目は、

目次
● 平成25年度施設長研修会
● 千葉県知的障害者福祉協会 広報委員会
● 千葉県相談支援従事者等専門「ース別研修
● 相談支援部会長 二木康雄
● 福利厚生事業
● 支援スタッフ部会コーナー
● 大規模改修工事を終えて
● 千葉知協トピックス
● 千葉知協トピックス
● 千葉県知的障害者福祉協会会長 里見吉英
● 平成25年度施設長研修会
● 千葉県知的障害者福祉協会 広報委員会
● 千葉県相談支援従事者等専門「ース別研修
● 相談支援部会長 二木康雄
● 福利厚生事業
● 支援スタッフ部会コーナー
● 大規模改修工事を終えて
● 千葉知協トピックス
● 千葉知協トピックス
● 千葉県知的障害者福祉協会会長 里見吉英
● 平成25年度施設長研修会
● 千葉県知的障害者福祉協会 広報委員会
● 千葉県相談支援従事者等専門「ース別研修
● 相談支援部会長 二木康雄
● 福利厚生事業
● 支援スタッフ部会コーナー
● 大規模改修工事を終えて
● 千葉知協トピックス
● 千葉知協トピックス
● 千葉県知的障害者福祉協会会長 里見吉英



抱えていることが
多い」との指摘が
ありました。

職場のメンタル
ヘルスケアの指針
や職場環境の評価

と問題点の把握、
さらには環境改善

に向けた活動に係
る一連の手順とい

った労務管理の基
本について説明して
いただき、管理監督者とし

ての役割を再認識する
ことができました。

課長山田勝士氏によ
り、「千葉県の障害者施

策と課題について」と題し、平成26年度予算を中
心とした行政説明がありました。

折しも、当日は9月県議会の閉会日であり、
一日目の最後に、千葉県健康福祉部障害福祉

課長山田勝士氏によ
り、「千葉県の障害者施

策と課題について」と題し、平成26年度予算を中
心とした行政説明がありました。

折しも、当日は9月県議会の閉会日であり、
一日目の最後に、千葉県健康福祉部障害福祉

課長山田勝士氏によ
り、「千葉県の障害者施

策と課題について」と題し、平成26年度予算を中
心とした行政説明がありました。

折しも、当日は9月県議会の閉会日であり、
一日目の最後に、千葉県健康福祉部障害福祉

課長山田勝士氏によ
り、「千葉県の障害者施

策と課題について」と題し、平成26年度予算を中
心とした行政説明がありました。

長野県に本社を構える中央タクシーとは?鳥
瞰図的にくくつてみると、「仲良きことは美し

きことなり」武者小路実篤の言葉になぞらえて
言うなれば、「美しき人間関係と気高き社風」
もつ会社である。会社の理念は「お客様の人生
を守る」こと。サービス業という言葉を使わな
いこと。と淡々と語る会長の話に引き込まれま
した。

会社の特徴は3つ

一つは、車の構成が珍しいこと。

ジャンボタクシーが70台。一般タクシーが46
台。これは「高齢者のニーズに応えて24時間の
空港便を運行しているためで、現在は旅行
事業部を立ち上げ、お花見ツアーや紅葉ツアーゼ
を企画している」とのことです。

二つ目は、離職率が低いこと。

タクシー業界の平均離職率が30%の中で、中
央タクシーは奇跡の2%を維持している。社員
は未経験者のみを採用しており、社員の入れ替
わりがあるので、平均年齢が若返っている。離
職率の低さは、「乗務員給料だけで生活ができる
こと。仲間との人間関係の良さによるものでは
ないか」と考えているとのことです。

三つ目は、売上げ目標。ノルマがないこと。
社内の経営会議で業績を分析する

ことはしない。売
上げ目標をつくつ
て、追いかんでい
くことはせず、会

社の理念のみを求
める。現場では、
社訓・理念が飛び
交っている。お客
様主義を貫けば、
利益は後について

くる。「お客様が先
利益は後」我が社

の永遠にして不滅の理念です。「理念とは、行動
基準、行動規範であり、理念なきところに行動
はない。」との信念で会社経営を行ってきたそ
うです。

さらに、特徴的なのが新人教育。「2週間の
研修終了後、社内認定試験を行い、80点以上が
合格。2回受験して合格しなければ、内定取り
消しとなる」そうです。研修期間中に社訓や理
念を教え込むので、現場に出れば、そこは社員
にとつて理念を実践する場となるそうです。

ですから、「我が社にはマニユアルはありません。強いて言えば、理念がマニユアル。」

社員一人ひとりが、理念に基づいて自分で判
断し、理念に基づいて自らの意思で行動する。

こんなことが勝手に現場で動き始めています。
この繰り返しで、業績は他社の2.5倍になつたと
のことでした。

そこには、機械的、事務的に業務をこなすの
ではなく、お客様の人生に寄り添い、お客様目
線で業務を遂行する社員の方々の姿が浮かびま
した。

宇都宮会長は、講演の最後を『私の誇りは社
員。社員が私の誇り』と言う言葉で締めくくら
れました。

福祉もまた人なり。「伝説の中央タクシーの
理念と実践に気圧されながら、自分は理念を伝
え切れているか。現場では、理念の実践がどこ
まで行われているか。」と振り返らずにはいられ
ませんでした。

ご講演いただいた講師の皆さまには、お忙し
い中、資料を準備してご登壇いただき有難うござ
いました。内容の充実した研修の機会を得る
ことができましたことを感謝申し上げます。



二日目の研修は、「これから福事業所運
営のあり方を他業種から学ぶ」をテーマにテレ
ビ東京カンブリア宮殿で紹介された中央タクシ
ー会長宇都宮恒久氏より、「お客様を感動させ、
幸福にする中央タクシーの経営とは」について、
講演していただきました。

長野県に本社を構える中央タクシーとは?鳥
瞰図的にくくつてみると、「仲良きことは美し

県相談支援従事者等専門コース別研修

相談支援部会長

三木 康雄

今年度の当協会の総会において、千葉県が実施してきた「相談支援従事者等専門コース別研修」の事業委託を、協会内のNPO法人生活サポート千葉で受けることになったことは、ご承知のことかと思います。

この研修は、障害児・者の支援において、相談支援の重要性が求められてきていると同時に、相談対象の多様化や施策の複雑化等への対応に対し、より専門的な相談支援を行えるよう、担当者の技能・質の向上を目的として、千葉県が取り組んできたものです。

この研修事業の委託については理事会の中で協議決定し、申請の準備を始めましたが、三障害を含めての相談支援ということもあり、初めて取り組む協会スタッフだけでは研修のイメージ作りや具体性に欠け、殆ど先に進めずと言つた状態で、事業計画の具体的な内容や予算案の作成等においては、千葉県自立支援協議会相談支援部会のワーキングチームとの連携と全面的な協力を得て作成することが出来ました。

研修の内容は、「障害児相談支援」「地域移行・地域定着・触法支援」「難病に関する相談支援」「初任者スキルアップ」「現任者レベルアップ」「就労支援」「市町村職員初任者」「市町村職員現任者」「ファシリテータースキルアップ」の九つの専門別研修によつて、今年度は計画されており、現時点で七つの研修が実施されました。

研修の実施にあたつては、委託を受けた生活サポート千葉が事務局となり、協会役員がそれぞれの研修を担当し連絡調整や運営に当たつてあります。また、講師やスタッフは県内を中心に行各テーマに即した専門職の方や県自立支援協議会に即した専門職の方や県自立支援協議会へ

会相談支援部会のワーキングチームの方々にお願いし、講義・事例検討を含めた演習的グループディスカッション等をより具体的且つ専門的に解りやすく進めています。

実施した研修参加者アンケートからの感想を総合的に見ると、「研修の内容を理解できた・ほぼ理解できた」との回答が平均70%を越え、具体的には、「内容が濃く充実したものだった・より具体的な事例等による講義や事例検討で理解しやすかった・それぞれの立場からの意見や情報が解り良かつた・漠然としていた事が理解でき自身の知識向上に繋げられた・連携の必要性等を感じることができた。」など等。前向きな評価の回答が多数寄せられています。

一方、要望としては、「内容を考えるともう少し時間をかけて欲しい。特に事例検討は更に具体的に行つて頂ければ・資料をもう少し解りやすくして欲しい・グループディスカッションを少人数で実施して欲しい・最新の情報をこれからも発信して欲しい。」等が出されており、今後の参考にして行きたいと思っています。

今回、この研修事業に携わる協会の一員として思うことは、相談支援と言つても障害種別や様々な相談内容の違い、それらに伴う対象事業の施策の違い等複雑で、当事者を始め事業者や行政の担当職員等も充分理解しきれず、困惑の中で実務に当たつているように感じています。だからこそ専門的に特化したこの研修の実施意義は大きいと思いますが、施策の整理の必要性もあるでしょう。

次年度以降も当協会がこの事業の委託を受け行うには、幾つかの課題も感じています。一つ目は、協会で携わるスタッフの事業への理解

と生活サポート千葉を含めた体制の確立。二つ目は、三障害及び難病等に係る専門職や団体とのネットワークと、県行政やそれらに属する組織との連携協力の強化。三つ目として、事業を展開する為の予算の確立。

以上、三点を今年度の事業総括の中で検討し次に活かせねばと考えています。

今年度の事業実施にあたり、ご指導を頂いた県障害福祉課の喜多見様・千葉県自立支援協議会相談支援部会の皆様・スタッフの一員として協力を頂いたファシリテーターの皆様等に改めて感謝の意を表し、事業の紹介及び報告とさせて戴きます。



福利厚生事業

●第12回施設職員交流ゴルフ大会

平成25年8月30日に大栄カントリー倶楽部にて、第12回となる施設職員交流ゴルフ大会が開催された。57名に参加いただき、ゴルフ並びに懇親会を通じて交流を深めた。

この時期のゴルフは、暑さという試練を乗り越えなければスコアをまとめることが困難で、技術面の他に体力が勝負のカギを握る。参加された方は、日頃から自己の健康管理が行き届いていると思われ、技術面は個人差があつたものの、全員が最後まで体調を崩すことなくラウンドを終了できることに感謝したい。

今年の成績は、優勝がしおさいホームの片岡篤氏、準優勝は袖ヶ浦更生園の井上隆憲氏、3位は北総育成園の城之内英夫氏が受賞した。ベスグロは男女共に菜の花会の独占で、男性は館山聰氏、女性が昨年に続き岩立きよ子氏だった。賞品などの協賛をいただいた皆さんに心より感謝申し上げます。

優勝	しおさいホーム	片岡 篤
準優勝	袖ヶ浦更生園	井上 隆憲
3位	北総育成園	城之内 英夫
ベスグロ	菜の花会	館山 聰
岩立きよ子		

●ふれあい広場フリー・マーケット

平成25年10月5日に、船橋競馬場にて「ふれあい広場フリー・マーケット」が開催された。当日は、生憎の雨にも関わらず10事業所に出店していただいた。天候の影響で売り上げは少なかつたと思いま

すが、協力いただき有難うございました。
出店団体は以下のとおり

のまる、上総喜望の郷、カメリアハウス、たびだちの村BISHA、オリーブハウス、上総ゆうゆうの郷、あきつ園、就労するなら明郷塾、吉沢学園、小池更生園

◆ 第20回施設職員交流バレー・ボール県大会

近くて遠い、あと1勝！（ふる里学舎チーム）
3期連続の準優勝！3度目の正直とはいかなかつたが、赤いユニホームに象徴されるよう情熱的に応援のまどまりも素晴らしいチーム。近いようで遠いあと1勝！この1勝を掴みとするための充電期間はもう十分だろう。来園こそは「倍返し！」

◆ 第20回施設職員交流バレー・ボール県大会

平成25年11月18日に千葉ポートアリーナにおいて、施設職員交流バレー・ボール県大会が開催された。今年は、第20回の記念大会となり昨年度より1チーム多い16チームで頂点を目指した熱い戦いが繰り広げられた。

圧巻の6連覇達成！（みずほ学園チーム）

以下は県大会出場チーム（順不同）

みずほ学園
ふる里学舎
北総育成園
菜の花会
ふる里学舎和田浦
九曜会、エルピザの里、吉沢学園、大久保学園、くすのき苑、千手会、清郷会
しおさいホーム、八日市場学園、千葉県社会福祉事業団、東京都千葉福祉園



ほ学園」に燃える他チームを迎え撃ち、10連覇を目指に頑張つてもらいたい。

支援スタッフ部会コーナー

テーマ「発達障害について～生きづらさの理解と支援～」

支援スタッフ部会部会長 鶴岡秀隆

去る8月20日（火）、千葉市生涯学習センターにて研修会を開催いたしました。一般社団法人 こども未来共生会 理事長 中島 展氏を講師にお迎えし、「発達障害について～生きづらさの理解と支援～」をテーマにご講演頂きました。先に開催した第一回代表者会議時のアンケートにて、発達障害に関する研修の開催を望む声が多かったことから、今回の研修テーマを決めたのですが、106名という実に多くのご参加を頂き、盛大かつ有意義な研修会となりました。会場の定員を超える参加となり、一部の方にご不便をお掛けすることとなったこと、改めてお詫び申し上げます。



中島氏は、元は入所施設の支援員であり、私たち支援スタッフの大先輩です。発達障害の基本的な知識について、現場の視点から、ご本人の体験談等を織り交ぜながら、分かりやすく噛み砕いて説明して下さいました。

発達障害について理解するということは、本人の特性を理解し、どのように支援していくかをオーダーメイドの方法を個別に考えることです。それは、発達障害であろうと、そうでなかろうと、それぞれの特性を理解し、個別に支援のあり方を考えることとは、全ての利用者について同じことが言えるものと考えます。ただ、日頃の支援の中でどうしてこのような行動に至るのか、障害の特性を理解しているつもりでも、袋小路に迷い込むことは多々あると思います。今回のような研修が、こうした壁を乗り越える、若しくは迂回路を見付けられるきっかけになるのではないかでしょうか。



また、中島氏は「施設内だけで考えるのではなく、行き詰まつたら外部に助けを求めるのも手だ」とも話されました。中島氏も施設で勤務されていた際に同じように行き詰まつこともあるようです。外部の専門家を施設に招き、内部研修という形で事例検討会等を行うのも良い策かもしれません。

来年度は役員の改選となります。基本的には部会全体での研修の開催は継続していく予定です。多くの方が参加したくなるような内容の研修を企画していくよう努めて参ります。今後とも支援スタッフ部会の活動にご協力をお願い申し上げます。

支援スタッフ
から見た!

わが施設の自慢・アピールポイント⑭

平成20年度から13回にわたり42の“プチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今年最後は2つの“プチ自慢”です！

千葉B)オリーブハウス

「お掃除依頼募集中！」

オリーブハウスに「お掃除プロ」という就労移行支援事業所があるのをご存じでしょうか。その名の通りお掃除のプロを目指していく班です。お掃除プロ班が我が施設に立ち上がり早3年。多くの利用者が就職へと結びついていきました。

1日の作業の流れは訓練所での清掃訓練、施設清掃が基本ですが、外部でのお掃除も頼まれる日もあります。訓練所では、雑巾の絞り方やほうきの持ち方など基礎訓練から入り、ポリッシャーという床洗浄に使う機会操作の訓練まで行っています。

また、訓練所には模擬ホテルルームを備え、客室清掃、ベッドメーキング等訓練をしてホテル業界での就職も目指しています。（見学に来られる殆どの方は、ホテルの客室をそのまま再現されていることにビックリされます）「掃除という行為は人格を磨く」という言葉があるように彼らと共に心も磨いていきながら、施設をお越しいただいた方々に、いつもきれいな施設と思ってもらえるよう頑張っていきたいと思います。

伊藤美奈子



東葛北B)多機能形事業所かりん

「近隣の住民の方々の目覚めと共に香ってくる焼きたてのパンの香り」

牧の原団地という活気ある団地の中に「社会福祉法人まつど育成会 牧の原マロン工房」があります。創業10周年を迎えるマロン工房は5年前に法人の新施設「多機能型事業所かりん」の開所に伴い現在の牧の原に移転しました。開設時から、パンの製造販売を行ってきました。ですが、パン屋さんとしてはまだまだ宣伝不足です。11月11日にはリニューアルオープンし、店舗も明るくなりました。それまでの個包装での販売から、より「町のパン屋さん」らしくと店頭にできたがそのままの状態で並ぶ形に変更、レジも最新式のもへと変更。また団地の方々の憩いの場として使って頂けるようなイートインスペースの設置などご近所さんが多いからこそ店舗へと様変わりしました。きれいになった、店舗で、利用者さんが生き生き働いています。



板橋 和真

大規模改修工事を終えて

社会福祉法人 心聖会

小池更生園（八千代市）

「三十年分のありがとう」～改修工事完了報告～

当法人では、社会福祉施設等耐震化等整備費補助金の交付を受け、平成25年3月より大規模修繕を行ってまいりましたが、去る平成25年8月をもつて工事が完了いたしました。昭和57年にオープンした小池更生園も、現在では築30年を超え、至るところで老朽化が進み、利用者支援という側面からみても安全で安心な暮らしへ担保することが困難な状況にありました。

小池更生園を利用されている皆様にとって、こ

れは暮らしの場であり、働く場でもあります。そ

の根幹部分の整備は、喫緊の課題であり、何とし

ても実現しなければなりませんでした。

入所されている利用者、また、そのご家族の皆様には大変長らくお待たせをいたしましたが、念願が叶い、晴れてリニューアルオープンをすることができました。4人部屋だった居室は2人部屋となり、快適な空間に生まれ変わりました。利用者の高齢化が進み、30年前にはいなかつた、車椅子の方々に感謝を申し上げる次第です。

「現状維持では後退するばかりである」という言葉がありますが、常に今よ



り向上することを考え、新たなことにチャレンジしていかなければなりません。周りの環境は進化し続けているわけですから、今と同じことを同じようにやつていただけでは自然と後退していくことになります。せっかくきれいになつた施設です。常に清潔を心掛けることは言うまでもありませんが、いつも向上心を持ち続け、支援にあたりますが、古い建物ながら、約30年もの間、利用者や職員と共に在り続けた改修前の施設にも、30年分の一「ありがとう」を添えて報告に代えさせていただきます。

施設長 吉村 優児



野田芽吹学園（野田市）

「新たな出発」～改修工事完了報告～

社会福祉法人野田芽吹会は昭和55年4月に知的障害者の生活の場として野田芽吹学園を開設しました。開設当時は県内にも入所施設が少なく、千葉県内の北部（東葛地域）に設立されたことは障害者を持つ家族にとってとても待ち望まれたものでした。以来地域の方に支えられながら歩んで参りましたが、コンクリートの冷たく硬い壁は時として大きな事故を招き、入所者の高齢化が進む中、古い設備では利用者の方の安全・安心は保てないと判断し、大規模修繕を設立30年を迎えた頃から

22年度の事業ということでかなり慌てたのですが、東日本大震災で次年度に持ち越され、日本中が混乱し、本当に工事が出来るのだろうかと不安が過ぎりました。追い討ちをかけるようにタイの大洪水で機材が入らないとのアクシデントがあり、一時はどうなることかと思つたのですが、無事念願の改修工事が終了し、施設は新たな出発を迎えることが出来ました。

終わってしまえば昔話となりますですが今思えば様々な想いが一つの方向に定まり、大きな力となつてこの改修を終えたように思えます。支えてくださった皆様、ありがとうございました。

施設長 鈴木美由紀



千葉知協 トピックス

千葉県第2位! 全国障スポ・スポーツ祭東京

10月12～14日、味の素スタジアムをメイン会場にして全国障害者スポーツ大会が開催された。千葉県は開催地東京都に次ぐ金59個、全国第2位の輝かしい記録をあげた。知的障害部門では30個の金を獲得し、安田智子（走高跳び）、渡辺啓仁（25メートル平泳）、中島啓智（25メートル自由）、鈴木千絵子（50メートル平泳）以上4選手が5競技で大会新を記録した。

また、唯一の団体競技バレーボール女子は、決勝で東京に惜敗したが堂々の銀メダルに輝いた。千葉市も11個の金メダルの内知的障害部門で金6個を獲得、ロンドンパラリンピック金メダリスト田中康大選手（50メートル平泳、50メートルバタフライ）始め、新井山敦（ソフトボール投げ）・西沢天空（ボーリング）の3選手が大会新を記録し、これが千葉市選手団の大会新全てとなる大活躍をした。



9月14日、成田市大谷津球場他で第28回千葉県ゆうあいピックソフトボール選手権大会が開催された。今回は台風の接近により2日間開催を1試合40分として参加26チームによるトーナメント戦を実行する。

富里福葉苑7年ぶり優勝! ゆうあいピックソフト

10月3日県総合スポーツセンター陸上競技場にて第20回千葉県障害者フライングディスク大会が開催された。ほんのり汗ばむ程の快晴の下、程よい風にも恵まれディスクスでは西城師選手（富里福葉苑）が69・83点を記録する等選手は存分に力を発揮し、高記録が続出した。

団体戦の成績は以下のとおり。



好記録続出! フライングディスク大会

一部 2位市川大野高等学園・3位流山高等学園、二部 2位松里福祉会・3位千葉市手をつなぐ育成会、三部 2位みのり福祉会・3位チヤレンジ国分、小林賞（いんば学舎、最優秀応援団賞）たびだちの村

三部は初出場同士の決勝戦、接戦の末ビーチンビシャスが初出場初優勝に輝いた。他の成績は以下のとおり。



太久保学園総合優勝 手をつなぐスポーツのつどい

アキュラシー 男子1位ひかり学園・2位富里福葉苑・3位中野学園、協和厚生園、女子1位富里福葉苑・2位中野学園・3位ひかり学園、3位ありのみ学園、女子1位富里福葉苑・3位市原市・3位千葉特別支援学校、男子総合1位富里福葉苑・2位市原市・3位市原市、女子総合1位富里福葉苑・2位中野学園・3位千葉特別支援学校、男女総合1位富里福葉苑・2位市原市・3位ひかり学園

メント戦を1日で消化し

た。1部は初出場の市川大野高等学園と富里福葉苑の決勝戦、同点後先攻したが攻撃途中で40分経過、大会規則により引分けとなり富里福葉苑が7年ぶり13回目の優勝を勝ち取った。二部は今回全試合出場可能となつたキヤラクターズが見事初優勝した。



三部は初出場同士の決勝戦、接戦の末ビーチンビシャスが初出場初優勝に輝いた。他の成績は以下のとおり。

第40回手をつなぐスポーツのつどいが11月6日県総合スポーツセンター陸上競技場で県内80団体2千5百名を超す参加者により開催された。暖かな秋日和の下、徒競走や玉入れ、パン食い競争等で楽しい汗をかき、昼食時には恒例の植草短大チアダンスサークルの演技を一緒になって楽しんだ。

対抗リレーでは今回より各部得点制を取り入れ総合順位を決める事になり、太久保学園が初の総合優勝に輝いた。成績は以下のとおり。

利用者男子の部1位富里福葉苑・2位太久保学園・3位ふる里学舎、利用者女子の部1位豊四季光風園2位富里福葉苑・3位太久保学園、職員男子の部1位太久保学園・2位ふる里学舎・3位みづき会、職員女子の部1位横の実会・2位太久保学園・3位ふる里学舎、総合1位太久保学園・2位横の実会・3位ふる里学舎、絵画展の部最優秀賞・吉武京子さん（ピクシーフォレスト）

おり。

平成25年12月23日

千葉県知的障害者福祉協会会員事業所における暴行事件について

千葉県知的障害者福祉協会
会長 里見吉英

平成25年12月12日に報道されました千葉県袖ヶ浦福祉センター養育園で発生した「職員による利用者への暴行事件」に関しては、誠に遺憾な出来事であり、亡くなられた利用者の方、またご家族関係者の皆様に対しまして多大な苦痛と悲しみを与えてしまったことに、千葉県知的障害者福祉協会として深くお詫び申し上げます。

また、多くの利用者の方々とそのご家族、施設関係者をはじめとした全ての国民の皆様からの信頼を損なう事態を招いたことに、重ねてお詫び申し上げる次第です。

千葉県知的障害者福祉協会は、過去にも権利侵害が発生していることを重く受け止め、今まで会を挙げて職員ならびに管理者等を対象に、研修会や事例研修を開催し、様々な場面において権利擁護と虐待等の防止に向けた取り組みをしてまいりました。

このような中、今回の事件の発生は、今までのとり組みを水泡に帰すものであり、当該事業所の責任は重大且つ、断じて許されるものではありません。

現在までの行政と警察による調査に加え、千葉県袖ヶ浦福祉センターより依頼を受けて、当協会権利擁護委員会委員長を外部委員として派遣し、調査に協力しているところであり、これらのことから今後事件の全容も明らかになる事と思います。

また、当該事業所の利用者支援への支障が増幅することのないよう、当協会各会員事業所より毎日6名の支援員を千葉県袖ヶ浦福祉センター更生園に派遣し、利用者の安全確保を第一に、第3者としての目を注ぎながら、後方支援にあたることしております。

千葉県知的障害者福祉協会といたしましては、今後事件に関する事実関係の究明と、会員事業所に対しての再発防止並びに喚起を、改めて全力で取り組むこととし、このようなことが繰り返し発生することのないよう、県内各事業所に対して、権利擁護と虐待の再発防止に徹底した取り組みを協会一丸となって進めてまいります。

千葉県知的障害者福祉協会 施設長・職員研修会の開催について

本来ならば11回目を迎える「自立支援セミナー」を開催し、今抱える様々な課題とこれからの福祉に向けた議論を繰り広げるところでございましたが、千葉県知的障害者福祉協会は今回の事件と真正面から向き合い、セミナーを中止し、今後のとり組みに会員一同が共通して進んでいくことを目指す研修会と致します。

開催日時 平成26年2月8日(土) 午後1時00分～午後4時30分

会 場 千葉市文化センター大ホール 千葉市中央区中央2丁目5番1号

次 第

13:00～	主催者挨拶 暴行事件等報告	千葉県知的障害者福祉協会会長 里見吉英氏
13:30～	千葉県身体拘束廃止促進事業 「行動障害のある人への入所型施設での虐待」－日本・イギリスの事例－	元 弘済学園施設長 三島卓穂氏
15:15～	「どう変わる？障害程度区分・グループホームの一元化」 日本知的障害支援区分の在り方に関する特別委員会委員長 河原雄一氏	
16:30	閉会	